

三重・四日市市でシンポジウム開催！
テーマは「教育が人間を創る」

去る7月13日、三重県四日市総合会館において「いじめから子供を守ろう！シンポジウム」が開催されました。



矢内代表

初めに、矢内代表からNPO活動の柱が「いじめの啓蒙、いじめの相談、教育改革」の3つであると説明があり、「現代の

いじめは昔と違って極めて悪質で、いじめの実態を伝えると共に、いじめは犯罪であると啓蒙しつつ、大人が作り上げた社会・教育であるならば、子供たちの未来のために、大人が立ち上がることで未来を変えていきましよう！」と訴えました。

皇學館中学・高校校長、大島謙氏からは、基調講演の「人間にとつての教育の大切さ」をお話いただきました。



大島 謙氏

大島先生は、民間企業の社長から、三重県初の民間人校長として、白子高校で学校改革に取り組み、大きな成果を上げた実績を持っておられます。

「今は、教育が軽く見られ、何のために教育するのが忘れられてきている。人間は生まれてきて教育がなされないと野生のままになってしまふ。

平等と公平の意味が間違つて認識されている。平等とは、結果平等ではなく、差別なくスタートラインに並ぶことができるといふこと。その後、努力した者と怠けた

者とは差がついてしまふが、それが本当の「公平」ということ。貧しい人、豊かな人、心の貧しい人、心の豊かな人、いろいろな人がいるが、それを埋めるのが、教育の力です。日本人の古き良き伝統を見直し、戦後の「甘やかし（まやかし）」の教育と訣別し、子供中心主義、落ちこぼれを増産するゆとり教育はやめるべき。

いじめは必ず解決できる。小さないじめを見逃さず、「いじめは許さない」という姿勢を校長が見せること。「ならぬものはならぬ」と、やっつてはいけないことをはっきりと教えるべきです。」



第二部のパネルトークでは、大島校長、保護観察官の堀田利恵氏、四日市市議会議長の日置記平氏をパネリストに迎え、「教育が人間を創る」をテーマに、議論されました。

堀田氏からは、「凶悪犯罪を起こした加害者は、家庭や学校で善悪を教えてもらってないため、『自分がされて嫌な事を人にしてはいけない』というところから指導せざるをえない」という実態が明らかにされました。

日置氏は、四日市での教育改革の取り組みについて、「教育白書を発行し、その中で『生きる力を与えよう』ということを重視している。確かな学力、健康づくり、豊かな人間づくり。豊かな人間作りには道徳の授業だが、日本の公教育には宗教がないから事務的になっている」と述べられました。

矢内代表は、「日本の教育の現状を、大人は知るべき。文科省は『指導ではなく支援を』という驚くべき方針を出している。親が知らないところで、明らかに子供が幸福にならない教育が行われているので、教育に関心を持ち、大人たちが教育改革してゆることが大切である」と訴えました。

そして、大島校長が「海外と比べて日本の学生は精神的に幼い。昔は、いじめのように卑怯なことは生存をかけてしなかった。私は生徒たちに『フラインプレーはいらない。フェアプレーをしなさい』と指導している。校長として『卑怯な事は許しません』と宣言する。学校内での条例化が一番の教育です」と、教育者のトップとして、勇気ある力強い言葉で締めくくって下さいました。

「いじめも」メルマガ、好評配信中！

(PC版/ケータイ版)

☆左記ブログから配信登録できます

<http://mamoro.blog86.fc2.com/>

◎各地のシンポジウムの詳しい内容も、NPOのブログサイトでご覧いただけます。

＜いじめ無料相談＞

☆どんなことでも、ご相談ください。

Mail kodomo@mamoro.org

TEL 03-5719-2170

FAX 03-3492-7137

編集・発行

いじめから子供を守ろう！ネットワーク

〒141-0031

東京都品川区西五反田1-29-3

五反田シティハイツ302

公式サイト <http://mamoro.org/>